

## ●第 19 回委員会 会議要点録

平成 18 年 8 月 28 日 18 時 30 分～21 時 10 分  
多摩市役所 特別会議室

出席者：檜垣正巳委員長 白鳥光洋副委員長 岡崎和子委員 小澤尚子委員 武智秀之委員 堤香苗委員

コミュニティセンター運営協議会：愛宕かえで館 乞田貝取ふれあい館 関戸一ノ宮つむぎ館 ひじり館 ゆう桜ヶ丘 貝取こぶし館 の役員の方

事務局：企画政策部長 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任 企画課主事

### 第7回評価部会

(1)コミュニティセンター運営協議会の方との意見交換

#### 今後の予定

- 第 20 回 9月4日(火曜) 18 時 30 分 市役所特別会議室

委員 第 18 回自治推進委員会を開催する。今回は、前回に引き続き「多摩市行政評価 外部評価」を進める。

また、本日は意見交換のためコミュニティセンター運営協議会の代表の方にお越しいただいている。

まずはお互いに自己紹介から。

(自治推進委員 コミュニティセンター運営協議会委員 自己紹介)

座長 評価とは理解しにくいものだが、事業の駄目だしをするのではなく、市民活動に重要な役割を担っている事業について教えていただき、良い点を認め、よりよい方向を目指すものとしたい。では、意見交換をはじめます。聞きたいことは、5項目。まずはコミュニティセンター事業の課題について教えていただきたい。

(以下、コミュニティセンター運営協議会の役員の方との意見交換)

#### 1. コミュニティセンター事業の課題を教えてください

- コミュニティセンター事業を運営する、コミュニティセンター運営協議会は、100%無償ボランティアであり、資金もなく体力的にも非常に弱い。毎年の予算が限られており、運営資金不足が生じる。
- 運営委員の平均年齢が 60～70 歳代。また、運営委員のなり手が集まらない。若い新しい力が欲しい。
- 施設に駆け込んでくる怪我人の対応や高齢者がお風呂を利用する際の事故等の対応もあり、限られたスタッフでは限界。

- 風呂の利用は課題が多い。利用者の固定化、無料であることからの公平性の問題、転倒事故もあり危険性が非常に高く、今後のコミュニティセンターの風呂利用のあり方を本気で検討することが必要。特に、施設の光熱水費の50%以上が風呂関係にかかり、風呂を維持するのは大変な経費と労力がかかっている。
  - コミュニティセンターでは世代の触れ合いを大事にしているので、若い人にも利用してもらいたい。
  - コミュニティセンターは学校でも会社でも役所でもなく位置付けが難しい。親も子どもを叱ってほしい、との要望もある。しつけについて館としてどこまでやるべきなのか。地域で子どもを育まなければとの考えもあり、コミュニティセンターのやるべき範囲についてジレンマがある。
  - 地域の盆踊りや防災訓練をコミュニティセンターでやってほしいなど、駆け込み寺として頼ってくるところが増えている。
2. **受益者負担の拡大や収益事業の拡大の可能性はないでしょうか**
- 裁量権を与えてもらえれば、収入を増やすノウハウは既にもっていることから、収益増は可能。
  - 夏祭りを自治会との共催で行いたくさんの参加があり、収益もあつたことから、運営資金に繰り入れて、事業展開に活用できる。
  - コンサート事業の実施においては、出演者が出演料を払う。聴衆にはワンコイン募金をお願いしている。これが、次の企画事業の資金につながる。
3. **企画内容について親睦・交流を目的としたもの以外に何を考えていますか**
- キャンプなど小学生対象の事業をやることで、その保護者をも取りこもうとしている。どんど焼きなどは中学生をメインにして来館を図った。ラジオ体操や盆踊り、きのこ採りなど、季節ごとの事業を通じて地域に理解してもらおうとしている。
  - 公民館とコミュニティセンターの接点を模索している。児童館・学童クラブ、図書館とは、イベントにおいて共催を行っている。
4. **新しく引越されてきた住民や新しい団体との関わり方はどのようなものですか。**
- 新しく転入された住民を調べるすべが無いが、管轄の地域には、広報誌(ニュース)を配布する。
  - 多摩に寝に帰る場所になっていてコミュニティセンターは視野に入っていない人も多い。広報活動は一生懸命実施しているが、正直、悲観的だ。
5. **その他、困っていること、不足していること、悩んでいることなどを教えてください**
- 1年契約3年更新の事務職員の採用についても任されているが、3年目の交代の際、スタッフの過半数が変わってしまうこともあり、利用者の方が詳しいことから、新スタッフへの交代があると苦情が増える。

- 夜遅いと電気代などもつたいないから早く閉めたいのだが、条例で定められており難しい。冬場は人もおらず早く閉めたい。
- 夜間は不審者が入ってくるので防犯面が問題だ。警察を呼んだことや、何件か傷害事件もあった。
- ぜいたくな造りの建物のため設備維持管理経費がかかる。
- コミュニティセンターのエリアの境界線が不確定。
- スタッフの時給も雇用数も市が決めており、実際の業務をみれば一ヶ月に支払える額はボランティアに近い。スタッフは仕事を通じてコミセンを理解し、その後運営協議会に残る人も多いことから、金額や雇用数の見直しが必要。
- イベント等自己の努力で得た収益を各館の裁量で、スタッフ賃金等に反映できればいいと思う。
- 大雨の時は近隣の公園から水があふれ出る、市職員が対応できない夜間等は、土嚢つみを高齢の運営委員が行わなければならない大変であり、その排水工事を要望している。
- トイレのトイレトペーパーの持ち帰りなどのいたずらがあり、対応として施錠することで、皆の使い勝手が悪くなった。
- 問題解決型のコミュニティセンターとして、子育て、自治会、これについては、しっかりと勉強させて欲しい。そのため、学習の機会が必要。先進事例をしっかりと勉強して、コミュニティセンターのあり方についてじっくりと討論して議論して見極めたい。

委員 ボランティア組織がどれだけ責任をもてるのか。お風呂は考えなくてはいけない。コミュニティセンターは青少年の受け皿になればという思いがあったが、小中学生に対する対応には頭が下がる。子供の対応の難しさもあり、青少年の受け皿になればいいが現場は厳しいと感じた。

委員 子どものしつけなどは家庭の問題。コミュニティセンターの問題ではない

委員 夜間の防犯は問題。

委員 コミュニティセンターがもっと評価されないとだめだ。地域の担い手が出てこない。

委員 コミュニティセンターを支えるものが必要だが、それは何か。

座長 他の自治体のコミュニティセンターの担い手よりも10歳ぐらい年齢が高い。利用者の高齢化も顕著の傾向。

事務局 市民アンケートが2件きている。(アンケート説明)

座長 アンケートの主旨を報告書にのせる。広報とコミュニティセンターのとりまとめは次回。受益者負担については表現を柔らかく、お風呂は廃止を含めて検討すると記載することにする。

- 委員 全体的な運営は館ごとの判断に任せるのでいいのではないか。
- 委員 シルバーを 60 歳と規定するのは疑問だ。
- 委員 コミュニティを考えれば、シルバーよりも子どもを大事にしたほうがよいのでは。
- 委員 お風呂については市が引導を渡さないと駄目だ。
- 委員 廃止については、はっきり方向性を示すのか、望ましいという表現にとどめるのか。
- 委員 指定管理者がうまく機能していない。
- 座長 公募ではないので難しい。指定管理者としての責任を求めると、コミュニティセンターの性質上、運営ができなくなる。
- 事務局 サービス提供施設としては公募の民間業者でもいいが、まちづくりの拠点と考えると地域の組織に担ってもらうのがよい。
- 座長 我々は審議機関なので、考えた結果の公表でいいのではないか。各運営協議会で検討してくださいというスタンスで。
- 委員 運営委員が勉強したいということについては？
- 座長 全館的にシンポジウムをやって地域について考えたり、発展して視察までという道をつけることもできる。
- 委員 総会が形骸化しているのでは。お互いに情報共有したり、違う角度から見る機会があれば。
- 座長 葬儀と税制上の優遇について意見があったが、誤解を与えかねないので評価に入れない。お風呂と受益者負担のところを肉付けする。次回もう一度。
- 事務局 今後のスケジュールについて。議会日程もあるので先に再構築プランを進めたい。次回は再構築プランを主に行い、評価のまとめの確認を行う。

【以上】